

「信濃の国 上田」歌詞 歌・作詞 さくらゆき

1 上田の里は 清らかな

依田川(よだがわ)、浦野(うらの)に
神川(かながわ)と千曲(ちくま)に注ぐ名流で
カジカが遊んで鮎(あゆ)踊る
美ヶ原(うつくしがはら)菅平(すがだいら)
豊かな自然に育(はぐく)まれ
蚕(かいこ)織(お)りなす上田紬(うえだつむぎ)
絹(きぬ)の恵みで栄えた蚕都(さんと)

2 緑(みどり)萌(も)ゆるは故郷(ふるさと)よ

空と大地に抱(いだ)かれた
真田本城(さなだほんじょう)丸子城(まるこじょう)
上田原(古戦)城(うえだはらじょう)塩田城(しおだじょう)
支(ささ)えとなるべく築(きず)かれた
砥石・米山(といしこめやま)堅固(けんこ)なり
古き歴史の残る場所 石の記憶と侮(あなど)るなかれ

3 めぐる季節に祈り込め

「一心様(いつしんさま)の火渡(ひわた)り」に
「戸沢(とさわ)のねじと馬引き」で健(すこ)やかに笑う子供たち
豊作(ほうさく)祝(いわ)う三ツ頭(獅子)(みつかしら)
祭りの後には癒(いや)しの湯
信州鎌倉(しんしゅうかまくら)別所(べっしょ)の湯
文殊菩薩(もんじゅぼさつ)が教(おし)えた鹿教湯(かけゆ)

4 花に囲(かこ)まれ笑顔咲く

千本桜(せんぼんざくら)に上田城(うえだじょう)
日本一(ひのもといち)の兵(つわもの)の
熱き絆(きずな)は受け継がれ
六文(ろくもん)雁金(かりがね)州浜紋(すはまもん)
そびゆる山々 流る川 時を超えても変わらない
上田の魂(たましい)ここに在り

